どうとく発問ラボ コラボ企画

開催報告

島先生と考える!! 道徳オンラインセミナー

黒田 弘子 先生

島 恒生 先生

多田 義男 先生

2021 年 12 月 5 日（日）、2 年ぶりの道徳セミナーをオンラインと会場のハイブリッドで開催しました。

模擬授業 では、小学校、中学校とも「どうとく発問ラボ」で事前に検討した発問を使用し、会場参加の先生方に児童生徒役をお願いして展開しました。

授業講評 では、実際に学校で授業したときの様子をご紹介いただきながら模擬授業を振り返りました。

講演 では、深い学びのある道徳の授業にするために、発達の段階に合ったねらいや中心発問できちんと道徳的価値を追求する重要性などをお話しいただきました。

プログラム

- **模擬授業** 小学校
  黒田 弘子 先生 愛知県みよし市立中部小学校教諭
  5 年生「すれちがい」【B「相互理解、寛容」】
- **模擬授業** 中学校
  多田 義男 先生 筑波大学附属中学校教諭
  3 年生「世界を動かした美」【D「よりよく生きる喜び」】
- **授業講評**
  島 先生、黒田 先生、多田 先生
- **講演**
  島 恒生 先生 畿央大学大学院教授
  「深める授業づくりと発問づくりのポイント」

参加された先生の声

参加する価値のあるセミナーでした。今週の実践から早速生かせそうです。

事前に発問ラボを視聴したため、授業者の先生のお考えがよく理解できました。

指導案だけではわからない問い返しの言葉や授業のテンポ感など、具体的な方法が知れてよかったです。

「過去のプラスを、みんなで追求してゲットした視点で」振り返るという島先生のお話はなるほど!でした。

よりよい発問を対談形式で検討する動画コンテンツ「どうとく発問ラボ」はこちらからご覧いただけます！

どうとくのひろば 読者アンケートがスタートします！

よりよい広報資料をお届けするため、先生のご感想、ご意見を左の QR コードからぜひお聞かせください！

どうとくのひろば No.31

日文教育資料［道徳］

令和4年（2022年）1月31日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン：モスリングラフィック

CD33582

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

日文教育資料［道徳］

どうとくのひろば

No. 31

こころのひろば

和菓子を通じて子どもたちへ伝えたいことがある
［高田 海道］…… 2

特別寄稿

ロールプレイングで始めるモラルスキルトレーニング
―体験的な学習の効果的な活用―
［渡邊 真魚］…… 6

見てわかる！ 道徳
「希望と勇気、努力と強い意志」（小学校）
「希望と勇気、克己と強い意志」（中学校）
「感動、畏敬の念」
［越智 貢、上村 崇、奥田 秀巳］…… 8

実践事例【中学校 1 年】
富士山の清掃活動を通じて公共の精神とは何かを考える
［中村 和成、島 恒生］……10

こんなコト、聞いてみました！
学級全体で活発に議論するための工夫は？
［上田 仁紀］……14

地球の仲間からのメッセージ
牙
［長瀬 健二郎］……15

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報 詳しくはWebへ！ 日文 検索

未来をになう子どもたちへ 日本文教出版

※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

こころのひろば

和菓子を通じて子どもたちへ伝えたいことがある

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
4 質の高い教育をみんなに
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任 つかう責任
17 パートナーシップで目標を達成しよう

写真中央が高田海道さん。

高田 海道（たかた かいどう）

Profile

株式会社虎屋本舗
第 17 代目社長

創業 400 年を迎えた 2020 年、社長に就任。地域と共に歩んできた同社の経営理念に SDGs の概念を取り入れ、文化の継承、地域の発展にも精力的に取り組んでいる。

創業元和六年 福山藩御用菓子司 備後福山 虎屋

【公式ホームページ】
https://www.tora-ya.co.jp/

「ジャパン SDGs アワード」（外務省）の受賞歴もある広島の老舗和菓子屋「虎屋本舗」の高田海道さんに、企業としての SDGs 活動に込めた思いをお話しいただきました。

SDGs に関わる活動に取り組まれたきっかけは何でしょうか？

2015 年に SDGs が国連で採択されて数か月のとき、お世話になっている大学院の先生から、「今後 SDGs がすごく注目されるよ。」と教えていただきました。それで、SDGs について勉強してみると、もともと自分たちがやっていたことが、すでに SDGs の取り組みになっているということに気づきました。うちは以前より和菓子教室を企画・実施し、地域密着型の和菓子屋としてさまざまな活動をしてきましたが、そういった経営理念や社会との関わり方は、SDGs の理念と非常に親和性が高いということがわかったんです。ですから、「これから SDGs に取り組みますよ。」と社内で意識の変化があったということもなく、それまで通りにやってきましたね。

御社の活動「瀬戸内和菓子キャラバン」の具体的な内容を教えてください。

新型コロナウイルス流行前の話になってしまいますが、地元の公民館や老人ホーム、あるいは都市圏で行われるイベントなどで、年間 2000 人超を対象に、出張で和菓子教室をやっていました。

ある日、瀬戸内の島にある中学校の先生から和菓子教室の依頼のお電話をいただき、職人と若い従業員を連れて行ってみると、その島は桑の実の産地でした。そこで、「この桑の実を使って何かできないか。」という話になり、地元の子どもたちだけではなく、島全体を巻き込んでの商品開発がスタートして、新たなお菓子が誕生したんです。

そのできごとがきっかけとなって、瀬戸内のレモンやはちみつ、塩などを使用した商品を、地域の人たちと一緒に開発するようになり、完成した商品はうちの直営店だけではなく、インターネットで販売したり、百貨店で扱ってもらったりするようになりました。そうして得た利益を元手にほかの島でも商品開発を展開していくという、この循環型サイクルを「瀬戸内和菓子キャラバン」と銘打って取り組んでいたところ、2018 年には外務省の「ジャパン SDGs アワード」を賜りました。

このように地元の人同士のコミュニティの中で世代間の文化継承ができることが、この活動のおもしろさだと思います。昔ながらの知識と若手の発想というのが合わさって、初めて新しい地方創生ブランドみたいなものが出てきたりもしますからね。企業がそういった役割をどんどん担う社会になってきているんじゃないでしょうか。

和菓子教室では何歳くらいの方を対象に、どのようなお話をされるのですか？

特に年齢制限はありませんが、学校や保護者の方からの依頼を受けて、子どもたちを対象にすることが多いですね。小学校の PTC 活動（保護者、教師、子どもの交流活動）で、50 ～ 100 人規模で体育館で行ったり、放課後児童クラブや支援学校に赴いたりしています。

教室を通じて、子どもたちには「文化」と「ものづくり」について伝えるようにしています。和菓子の材料を配って作って、「はい、できましたね。楽しかったですね。」で終わりにはしません。「和菓子がもつ日本の文化的側面を教えてほしい。」という希望が多いので、「日本には四季がありますよね。和菓子屋さんは四季によって作るものが違うんですよ。」という話をします。春は桜餅やぼた餅、夏は葛切りや水ようかん、秋はおはぎや栗餅、栗団子……という感じで。

親子を対象にした和菓子教室。参加者は自分なりの工夫を凝らす。

和菓子教室では、まずこちらで見本は作るんですが、子どもたちは突拍子もない色や形のものを作ったりします。でも、それが工夫してたどり着いた結果なので、どんなものであっても褒めるんです。工夫したことが素晴らしいと思うので、「あ、それ、すごくいいじゃん！」と褒めると、とてもうれしそうに「持って帰って家族に見せる！」「もったいないから帰ってから飾っておく！」と言ったりします。こういった発想は、一度仏壇にあげてから食べる「お供えの文化」にもつながるんだと思います。

今後の 20 年間で AI が人間の職業を奪っていくという話がある中で、私たちが伝えられる「ものづくり」って何だろうって思うんです。人間は、「色や形がきれいだな。」「質感がいいな。」という、いわゆる情緒的価値を感じることができますよね。機能的価値だけを追求するのなら栄養食品で栄養だけを摂取すればいいんですけれど、やっぱり人間の脳って色や形を見て、おいしいと感じるところがあると思うし、そういった「人間がもっている感覚」は大切だと思っています。その情緒的価値を満たしているのが和菓子なんです。

椿

牡丹

桔梗

上生菓子を作るときには椿とか牡丹とか桔梗とか、いわゆる日本古来の茶花をモチーフにすることが多いんですよ。それらは普段からわりと目にすることが多い花なんですけれど、実際の花をイメージできない子はすごく多いですね。だから和菓子教室でも「帰りに探しながら帰るといいよ。」とアンテナを高くすることを意識づけるように話したりもしています。最近は身近にある文化や感覚というものが置き去りにされがちですが、そんな時代だからこそ、あらためて細かく観察することが情緒的価値の発見につながり、AI にはできない、人間にしかできない「ものづくり」に結びつくんじゃないかなと思います。

それから和菓子教室では、ただ単にお菓子の話をするだけではつまらないので、プラスαの要素も伝えるようにしています。このプラスαの部分は行く場所によって変えていますが、行き先が島だったときには、弊社がもともと廻船問屋という貿易業をやっていたことについて話しましたし、うちは所在地が広島ですから、平和の話をすることもあります。「戦争があったときに一度店が焼けちゃったんですよ。今こうやって当たり前のようにお菓子を作れるのはありがたいことですね。」というふうに。原爆ドームの近くに被爆した小学校があるのですが、そこでは原爆の話や、当時の店の様子などを話しました。

海外の方を対象に実施されることもあるそうですが、日本の方を対象にしたときとの違いなどはありますか？

花だけでなく、季節の行事も和菓子のモチーフに。

JICA の方々と SDGs ×和菓子の共同文化セッション。

まず、四季の説明が難しいです。さらに、和菓子屋というのは春夏秋冬だけじゃなく、二十四節気や節句にも深く関わりがあります。豊穣の祝いやひな祭り、端午の節句など、日本ならではの季節のイベントに関連したものを作ると、やっぱり海外の方にとっては新鮮なので評判がいいです。

以前、JICA の海外研修生の方々を対象に和菓子体験イベントを行ったとき、彼らは「私の国にはこういうお菓子文化がありますよ。」とディスカッションをしていました。「日本は四季に応じて細かな行事があることが素晴らしく、まるでサンクスギビングデーが毎月あるみたいだ。」なんてこともおっしゃっていましたね。

また、海外の方に和菓子をお出しする場合は、必ずお茶とセットにしています。お茶って何もなしにそのまま飲むと、苦いじゃないですか。きっちり茶室で正座をして飲むと、すごく気分が落ち着く。和菓子も包装から出したものをそのまま食べるより、一旦、器に盛られたものをお茶と一緒にゆっくり口に運んで食べるのが本来の味わい方なので、それを体験したときはすごく感動してもらえますね。

それから、海外の方は豆やあんこに対して最初はちょっと抵抗感があったりするんですが、上生菓子では、小麦、卵、牛乳を使いませんから、「実は和菓子ってヴィーガンデザートなんですよ。」と伝えれば、宗教的理由で食べ物の制限がある方にも受け入れられやすくなります。

2014 年には経済産業省の「ダイバーシティ経営企業 100 選」にも選ばれていますが、高齢の方を雇用する強みは何でしょうか？

サービス業ですから、人生経験豊富な方がいらっしゃると接客業務に深みが出ます。そして技術的な面でも、熟練の職人は年齢を重ねれば重ねるほど作るものも早さも違いますから、いいお手本になります。そういった面で多様性があるのは、すごくいいことかなと思っています。

一昨年、定年を 75 歳に引き上げました。今年 75 歳になる職人もいるんですけれど、まだしばらく働いてもらおうかと思っています。最終的には定年をなくしたいですね。とはいえ、体力的な心配や待遇の問題など、雇用する側にもされる側にもデメリットはあります。そのあたりは、双方で理解を図ってバランスをとることで、メリットに変えていくことが大切になってきます。

現在新たに取り組まれていることや、これから始めたい活動などはありますか？

和菓子教室をオンラインでやってみたいですね。和菓子作りのキットを送って、世界中の子どもたちとオンラインで一緒に作ってもいいと思います。

もう一つ、これは具体的な話なんですが、和菓子屋が和菓子を売るだけの時代はもう終わってきたなと思っていて、今後は「文化」を商いにしなきゃなと考えています。お客様が和菓子屋にいらっしゃる一番の理由って何かというと、「のし」を書いてくれるからだと思うんです。「結婚の内祝いのお返しなんですが、どう返せばいいですか。」「四十九日法要のお返しなんですが、どう書けばいいですか。」と聞かれて、「こうするといいと思います。」「こう書くといいですよ。」などとお教えして、「のし」をきちんと手書きで書いてそれを包装して渡すという、そこまでが和菓子の価値なんじゃないでしょうか。和菓子教室も子どもたちが作って終わりではなく、持って帰って保護者に見せて、「今日こんなことがあったんだよ。」と話すまでのワンパッケージが価値なんだということを強く感じています。だから、そういう「文化を商いとする」ような和菓子屋になりたいなと思っています。

近く、新店舗を開店する予定なんですが、そこは半分くらいオープンキッチンにしようかなと思っているんです。そして、大人向けにワインや地ビールなんかも置こうかなと考えています。チーズのようなちょっとしたおつまみなんかも置いて。地元の町内会、子ども会などにも無料開放して、その場で自由に共同利用してもらったり、茶道や華道の教室などもそこでやってもらったりするんです。そうするとお店にいらっしゃる理由が「コミュニティがそこにあるから」になって、人がどんどんいろいろなことをしに集まってきますよね。そのように半分公民館のような形で人が集まるということは、今後大切になってくると思うんです。

和菓子教室

最後に、未来を担う子どもたちへメッセージをお願いします。

今の日本はすごく豊かになりましたが、膨大な量の情報を手軽に得られるようになったために、受け身になってしまっている部分があると思うんです。そんな中にあっても衣・食・住に関わるさまざまな文化に触れ、アンテナを張り巡らせて、自分だけの考えや価値観を見つけ出してください。きっと楽しい世界が広がりますよ。

貴重なお話をありがとうございました。

日本文教出版『しょうがく どうとく いきる ちから 1』には、季節の和菓子を題材にした「にっぽんの おかし」を掲載しています。

特別寄稿

ロールプレイングで始める モラルスキルトレーニング

―体験的な学習の効果的な活用―

日本大学教授　渡邉 真魚

1 教室に持ち込む小さな仕掛け

教師は、教科書に小さな仕掛けを添えます。主題にまつわるちょっといい話、見せたい動画、一緒に考えたい新聞記事やとっておきの写真など、いずれも、本時のねらいを達成するための仕掛けです。特に道徳的諸価値の理解、すなわち、価値理解、人間理解、他者理解のために、私が効果的だと実感しているのが役割演技（以下、ロールプレイング「ＲＰ」と表記）です。

道徳科においては、「考え、議論する道徳」への質的転換を図ることが求められていますが、そのためには、教材の道徳的な場面を提示した後、児童生徒全員が考えたくなる場の設定が必要です。つまり、中心となる発問を教材の中に設定するのではなく、児童生徒が主体的に考えたいと思うものを授業の中心に据えるのです。

そこで、教材の中から道徳的行為の場面に注目したいと思います。その場面にどのような心情や判断、実践意欲や態度があり、価値を形成しているのかを、ＲＰで可視化して考えさせ、「主体的・対話的で深い学び」に導く仕掛けを構築するのです。

2 ロールプレイングの効果

ＲＰは、心理学者のモレノが考案したサイコドラマ（心理劇）から派生した技法です。道徳授業の中でのＲＰは、道徳的価値を共有したり道徳的判断をどうするか話し合ったりしながら実践することで、道徳的実践意欲や態度を醸成する力のある指導方法です。

もちろん、教材を読む、行間を読む、他者の心情に想いをはせる、動作化するなどにおいても授業の目的は達成できると考えますが、ＲＰの醍醐味（だいごみ）は「即興的に」というところにあります。できるだけ児童生徒が実際に生きる社会と同じ生活状況を設定して、道徳的心情や道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を育み、その活動を他者と協働しながら答えを見いだしていくことは、児童生徒の道徳性を育むための「思考力・判断力・表現力」を豊かにし、学習活動の場面で発揮される道徳性にもつながると考えます。

また、ＲＰ後の全体交流では、演技のうまい・下手を指摘することはせず、演者と観客が一緒になって「感じたこと、気づいたこと、考えさせられたこと」などを洗い出しながら道徳的諸価値の理解を追究することが大切です。ＲＰは、感情・理性・行動の三面に働きかけることができるため、自由な役割の想像が主体的な価値の創造につながるとともに、道徳的内面を形成し、道徳的行為を考えさせる効果があるからです。

このＲＰに目的をもたせて取り組む体験的な学習の一つが、モラルスキルトレーニングです。

3 モラルスキルトレーニングの実際

モラルスキルトレーニングは、道徳的価値を含むスキルトレーニングです。実際には、ＲＰで教材場面の問題を再現したり、新たな道徳的場面を設定して解決を図ったりする過程で、道徳的内面を形成し、道徳的行為を創造することを目的とする学習活動です。

まず、導入では、教材の道徳的行為の場面に注目させて道徳的価値に出合わせ、状況を理解させます。

次に、全体で考える場の設定ができたところで、異なる目的をもたせたＲＰを２回行います。１回目は、道徳的状況を再現するためのＲＰで、２回目は、道徳的状況の解決を図るためのＲＰです。

①再現のＲＰ

教材場面を再現させます。即興性を大切にするため、児童生徒には教材場面を自由に演じてもらい、演じた側にも観ていた側にも、気づいたことをもとに道徳的価値について話し合わせます。

②解決のＲＰ

教材場面を解決したり、あるいは、教材から離れて新たな道徳的場面を解決したりするＲＰを行い、一般化を図ります。問題を解決する過程を通して、実際に身に付けるべきスキルを考えさせるのです。取り得る望ましい行為を実際に行ってみることで、道徳的行為への態度（心構え）を醸成させることがねらいです。

なお、教材によっては、問題とする状況が解決していたり、葛藤を抱えたまま終わっていたりすることがあるため、教材の特性を見極めることも大切です。

また、学級の実態によっては、教材の問題場面を日常的に解決できる集団だったり、逆に解決できなくて困っている集団だったりする場合があるため、実態に合わせ、RP に目的をもたせることが必要です。

実践例（１）

教材：「折れたタワー」【B「相互理解、寛容」】

（『小学道徳　生きる力　5』日本文教出版）

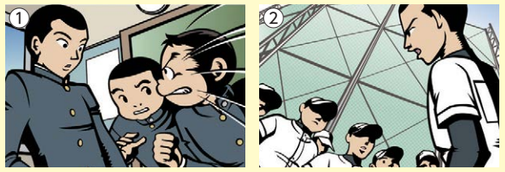
①教材場面「タワーが床に落ちて折れている」を RP で再現させ、登場人物の行為から心情や判断の理由を学びます。

②教材から離れた「相互理解、寛容」に係る状況を新たに提示し、それを解決するＲＰを行います。

実践例（２）

教材：「近くにいた友」【B「友情、信頼」】

（『中学道徳　あすを生きる　1』日本文教出版）



①教材場面「翌朝の教室で信也を責めるオサム」を RP で再現させます。

②教材場面を解決するＲＰとして、事情を知ったオサムが信也の家に向かう途中でどんなことを考えていたか演技させます。

ＲＰは、発達段階による気恥ずかしさから抵抗を感じたり、道徳的価値を頭ではわかっていても行動できなかったりする場合がありますが、いかに自分のこととして捉えさせ、考えさせながら、心の中を丁寧に言語化させるかが大切です。

そのための方策として、再現のＲＰの前にウォーミングアップとしてのペア・インタビュー（ペアで登場人物になりきって話をする時間）や、解決のＲＰの前にメンタル・リハーサル（目を閉じて新たな場面を想像する時間）を位置付けることも効果的でしょう。いずれも、教材の特質や学級の実態などに応じて取り入れることで、ＲＰの目的を達成させることにつながります。

教材の中にある登場人物の行為に着目し、目的をもったＲＰを行う授業づくりには、「内面から行為へ」「行為から内面へ」という双方向の学びがあり、児童生徒の実社会につながる生きた学びになるのです。

4 「学びに向かう力」の原動力

体験的な活動をはじめとする協働的な学びは、児童生徒が自己評価をする際、自分自身の変化を捉え直す機会をもたらします。そのため、道徳科におけるグループ活動は、児童生徒が変容に気づくきっかけを与え、その結果、自己変容につながりやすいと考えます。また、教師にとっても授業中の学習活動は、個人の思考過程が表出するため見取りがしやすく、学習活動の相互評価にも適しています。

新たな知識やスキルが身に付いたことが実感できる教室で、手が届きそうで届かない、未知なる課題に出合う。それが児童生徒の学習意欲を喚起する。そのとき初めて、教材が生きて働き、効果的に活用され、「特別の教科 道徳」ならではの特長が際立つ学びになると考えています。

渡邉 真魚（わたなべ まお）

専門分野：道徳教育
福島県公立中学校教諭、福島県教育庁、福島県公立小学校校長などを経て現職。過去には「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会　考える道徳への質的転換に向けたワーキンググループ」委員も務め、道徳教育に関する研究多数。
日本文教出版『小学道徳　生きる力』『中学道徳　あすを生きる』編集委員。

第18回　見てわかる！道徳

道徳の学習における応用編です。基本となる22の内容項目は、それぞれ独立しているわけではありません。
それらは密接に関わり合い、また競合する場合もあります。
ここでは、内容項目間の関係をわかりやすく解説し、道徳的価値の本質やおもしろさに迫ります。

今回のテーマ

「希望と勇気、努力と強い意志」（小学校）
「希望と勇気、克己と強い意志」（中学校）
「感動、畏敬の念」

監修：広島大学名誉教授　越智 貢
共著：福山平成大学教授　上村 崇
北海道教育大学准教授　奥田 秀巳

あの人のために

何かを成し遂げることができたとき、「一人ではできなかった」「彼／彼女がいたから最後まで頑張れた」と述懐する人は少なくありません。実際に手を差し伸べてくれたというのではなく、彼／彼女の存在が、ともすればくじけそうになる気持ちを打ち払い、困難に立ち向かう力を与えてくれたと語るのです。

いつも応援してくれる人の顔や声を思い起こして、「あの人」のために、「あの人」を悲しませないために、ここで諦めてはならないと自分自身を奮い立たせたことを、そう表現しているのでしょう。「あの人」の多くは家族など身近な人々なのかもしれません。親のために、我が子のために、あるいは伴侶のために頑張るという発言は珍しくはありません。そう語る人たちは、大切な「あの人」のためであれば、自分のこと以上に頑張ることができる人々です。彼らにとって、「大切な他者」は「勇気や力を与えてくれる他者」と同義です。

あの人のように

それとは異なった仕方で、「あの人」が勇気や力をくれることもあります。弱音を吐かない人や苦難を乗り越えた人を念頭に置き、自分も「あの人」のように頑張ろうと自分自身を鼓舞する場合です。他者の生き方を見習って、その生き方に近づきたいと願った経験は誰にでもあるでしょう。尊敬する歴史的な人物や物語の中の主人公を見習おうとする人もいるかもしれません。そうした見習うべき「あの人」は、まさしく私たちの模範と呼ばれるべき存在です。

見ず知らずの他者の姿が模範となることもないではありません。例えば、昨年のパラリンピックで活躍した選手たちです。テレビの映像を通して、障がいをものともせず、目標に向かって懸命に挑戦する彼らの姿は、私たちに畏敬の念ともいうべき感動を与え、私たちの心に深く刻まれました。競技する彼らを応援する人々の中には、これほど頑張っている人たちがいる、自分も弱音を吐いてはいられない、彼らを見習ってもっと努力しなければ、と自分に言い聞かせた人も少なくなかったに違いありません。

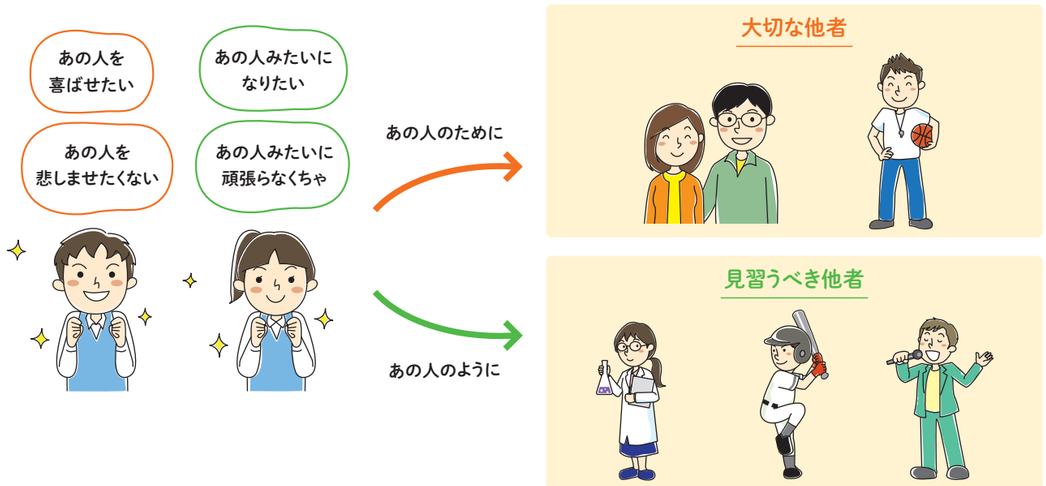


図１　私たちに力を与える他者

私の中の他者

他者が私たちを導き、私たちに力を与えてくれるのは、困難に打ち勝とうとする場合だけではありません。さまざまな場面で、他者は私たちを支えてくれています。

例えば、ごまかす、うそをつく、不正に手を染めるといった振る舞いへの誘惑が芽生え、それに負けそうになるとき、私たちに踏みとどまる力を与えてくれるのも、私たちの心の中にある他者でしょう。その他者は、私たちの心の中で、私を裏切らないで、私のために誘惑に打ち勝ってと語りながら、私たちに踏みとどまることを迫るのです。

その声が届かず、間違った選択をしたときには、他者の声は、いっそう声高に私たちを責め始めることでしょう。いわゆる良心の呵責（かしゃく）とはこうした状況を指している言葉であるに違いありません。

勇気をもつとは

このように考えてくると、他者から勇気や力をもらう事態は、私たちと他者との間にある呼応の関係を表したものであることが理解できます。

生きていれば、誰もが、大小を問わず、さまざまな問題に直面します。それを克服しなければならないとき、他者の声や姿が、私たちの中に眠っている勇気を呼び覚まし、私たちのもとに届けてくれるのです。つまり、勇気や力をもらうという表現は、自分一人では引き出せない勇気や力が、他者の存在によって引き出されることにほかなりません。

とすれば、くじけることのない意志の強い人とは、優れた特性を身に付けた人というよりも、自身を支えている心の中の他者と深く結ばれ、いわば一体となった人といったほうがよいかもしれません。その人にとって、自分を裏切らないことは、同時に自分の心の中にいる大切な他者を裏切らないことでもあるはずだからです。

学習指導要領の内容項目では「勇気」を巡って、「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」と書かれています。それが重要であることは言うまでもありません。しかし、その文脈の背後で、私たちの心の中の他者が私たちを強く支えてくれていることを、決して忘れるべきではないのです。

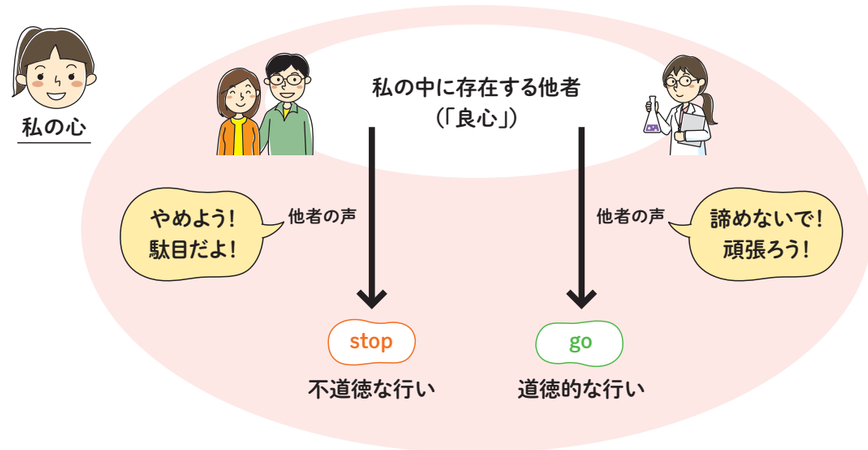


図２　私の中に存在する他者と道徳

実践事例
中学校
1年

富士山の清掃活動を通じて公共の精神とは何かを考える

東京都港区立赤坂中学校主任教諭　中村 和成

① はじめに

小学校の内容項目C「勤労、公共の精神」では、1・2年生で「働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。」として、また3・4年生で「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。」として、「勤労」について考える。そして5・6年生では「働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。」として、初めて「公共の精神」について学ぶことになる。

これを受けて、中学校の内容項目C「社会参画、公共の精神」がある。もちろん、社会全体のために役立とうとする態度を育てるという意味では小中共通である。しかし中学校では、もう少し「個人」という考えが前面に出てくる。学習指導要領解説における「個人が安心・安全によりよく生活するためには、（中略）主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことが大事になる。」「社会全体に目を向けるとき、個人の向上と社会の発展とが、矛盾しないような在り方が求められ」などがそれにあたる。「富士山から変えていく」は、そんな「個人」と「社会」との関係を考えさせるうえで好教材である。

② 指導の工夫（「展開」について）

道徳の授業では「導入」「展開」「終末」と分けるのが一般的である。ここでは「展開」について、普段から思うところ、気をつけていることを述べたい。

⑴ 展開とは

道徳の授業における「導入」が、主題に対する学習の方向性をつかませることに重きを置くものならば、いわゆる「展開」とは、生徒一人ひとりが教材を通じてねらいの根底にある道徳的価値についての自覚を深めるための段階であり、指導過程の中で最も多くの時間をかけるべき部分である。展開後段においては、自分の生活を振り返らせ、現在の自分の価値観に気づかせることも必要となる。また「終末」とは、教師の説話やことわざなどを使って学習のまとめを行い、今後の発展につなぐ段階といえる。以下、「展開」の中での工夫、特に効果的な発問について考えていきたい。

⑵ 効果的な発問とは

発問で大切なのは何といっても「中心発問」であり、ここでその時間のねらいとする価値に迫っていくことが必要となる。さらに、生徒の心が揺さぶられ、「ほかの人の考えも聞いてみたい。」「班で話し合いたい。」と多様な考えが引き出されるような発問にすることを第一に考えて構成するのも大切である。また、一人ひとりの考えや気持ちを引き出せる発問に加え、話し合いをより活発にするための効果的な発問として、生徒の実態と教材の特質を押さえながら、生徒が実体験を通じて感じたことや考えたことなどを引き出せる発問も考えていきたい。具体的には、中心発問を含め、多くても4つまでに発問を絞り、ねらいに迫ることができるようにする。

特に展開前段では、「あなたならどうしますか。」というような生徒の行動を直接問う発問は避け、登場人物や筆者の心情を丁寧に追っていくことを心がけたい。自分のこととして考えると損得や周囲を気にした意見になってしまいがちだが、主人公の心情に自分を重ねることで、逆に多様な意見が出るようになるのである。

一方、展開後段では、ねらいとする価値に関わって、今までの自分を見つめさせる発問が必要となる。時には、「どういうところからそう言えるのかな。」と根拠を尋ねたり、「もう少し詳しく説明して。」と内容をはっきりさせたりする補助発問も必要である。

今回の授業では、中心発問の後に発した補助発問「皆さんが盛んに言っている『意識』って何？」が、実は陰の中心発問だったかもしれない。

教材名	富士山から変えていく（『中学道徳　あすを生きる　1』日本文教出版）
内容項目	C「社会参画、公共の精神」
主題名	つながりが生み出す力
ねらい	社会参画の「意識」を高め、一人ひとりが協力し、よりよい社会を実現していこうとする実践意欲を育てる。
教材あらすじ	登山家の筆者・野口 健さんがエベレスト登山をきっかけに環境問題を「意識」し、富士山の清掃活動を通して感じたことが書かれている。日本一の山である富士山には年間30万人もの登山者が訪れるが、過去には世界自然遺産への登録断念を余儀なくされたほどのごみ問題を抱えていた。それを自分ごととして意識した野口さんは、富士山の清掃活動という形で行動を起こして、次第に多くの賛同者を得ることになる。やがて一般登山者の意識は大きく変化し、5合目より下の不法投棄問題こそいまだあるものの、5合目より上のごみは本当になくなった。この実話をもとにした教材である。

③ 教材分析について

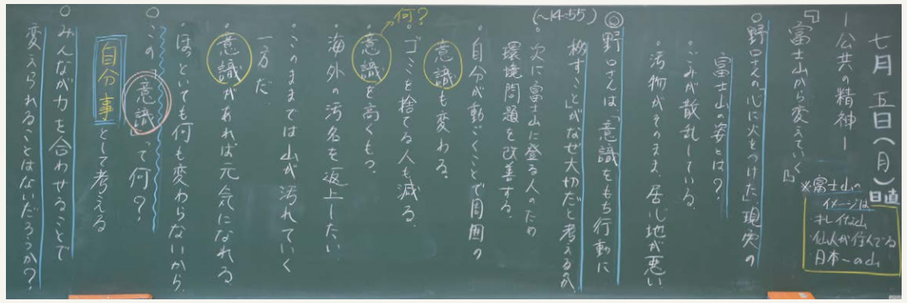
教材の流れ	筆者の心の動き	発問	発問の意図
登山家の筆者・野口 健さんは、エベレストがごみだらけであることに驚いた。	あまりの汚さにうんざりした。		
メンバーに「日本人はエベレストをマウント・フジにするのか！」と言われた。	なぜ富士山が引き合いに出されるのかわからない。		
初めて夏の富士山に登って、ごみの多さや悪臭などその汚さに驚いた。	なぜこんなにごみが落ちているのか。これでは「世界で最も汚い山」と冠されるのも無理はない。なんとかしなくては。	○野口さんの心に火をつけた現実の富士山の姿とは、どのようなものだったか。	野口さんがショックを受けた現状は、多くの日本人が抱いている富士山のよいイメージから程遠いことを明確にする。
富士山の清掃活動の参加者が増え、富士山の5合目から上はごみがなくなった。	人間一人ひとりの力は微々たるものかもしれないが、結集することで非常に大きな力になる。	◎野口さんは「意識をもち、行動に移すこと」がなぜ大切だと考えているのだろう。 ○野口さんのいう「意識」とは何のことだろう。（補助発問）	現状をよりよくするためには一人ひとりの意識と行動が大切であることを考えさせる。 社会のさまざまな状況を自分ごととして「意識」できるかが、主体的な社会参画への鍵となることに気づかせる。

畿央大学大学院教授 島 恒生 先生から

まず、道徳の内容に関して、小学校から中学校への発達の段階を押さえていらっしゃることが大変重要です。「公共のために働くことが大事だ。」という行い・行動レベルや、「働くことは自分にとっても、みんなや社会にとっても大事なことだ。」といった小学校レベルの学習にとどまってしまっては、わかりきったことを言わせたり書かせたりする課題になってしまうからです。

また、中村先生の考える「導入」「展開」「終末」の役割や、教師が言ってほしい発言ではなく生徒一人ひとりの心の内にある考えや気持ちを引き出せる発問は、「考え、議論する道徳」を進めるうえで、とても大切なポイントです。

	学習活動（◎中心発問、〇基本発問、・予想される生徒の反応）	◇指導上の留意点
導入	**1 本時の内容項目（テーマ）を確認する。** **〇今日のテーマは「公共の精神」。どんなイメージがあるか。** ・公の場を大切にする。	◇野口 健さんの簡単なプロフィールも紹介する。 ＜野口 健（のぐち けん）＞ アルピニスト。1973年生まれ。25歳で7大陸最高峰最年少登頂の世界記録を樹立（当時）。エベレストや富士山での清掃活動、環境学校、戦没者の遺骨収集など、幅広く活躍している。
	〇富士山にはどんなイメージがあるか。 ・きれいな山。 ・仙人が住んでいる。 ・日本一の山。	◇範読前に、富士山の写真を提示しながら、そのイメージについて確認する。
展開	**2 教材「富士山から変えていく」を読み、話し合う。** **〇野口さんの心に火をつけた現実の富士山の姿とは、どのようなものだったか。** ・汚い不法投棄により、ごみが散乱している。 ・汚物がそのまま。臭いがする。 ・居心地が悪い。	◇2人組で意見交換させる。 ◇野口さんがショックを受けたのと同様に、私たちがもつ富士山のよいイメージと現実の富士山は程遠いことを明確にする。
	◎野口さんは「意識をもち、行動に移すこと」がなぜ大切だと考えているのだろう。 ・次に富士山に登る人のため、環境問題を改善する。 ・自分が動くことで周囲の「意識」も変わる。 ・自分がごみを拾うことで捨てる人も減っていく。 ・「意識」をしないと行動できない。「意識」を高くもつことによって、一回で終わらずほかのことでも行動に移せる。 ・行動することで海外からの汚名を返上したい。 ・このままでは山が汚れていく一方だから。 ・放っておいても何も変わらないから。 ・一人ひとりが「意識」を変えて行動しないと何も変わらないから。	◇4人組で意見交換させ、「どんな話し合いになったか、後で聞きます。」と指示する。 ◇富士山には、以前ユネスコの世界自然遺産への登録を断念した経緯があることも話に入れる（その後、2013年に「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」として世界文化遺産に登録されている）。
	〇社会をよりよくするために一人ひとりの「意識」をもつことが大切なのはわかるが、その「意識」とは何か？（補助発問） ・他人ごとにせず、自分ごと として考える。	◇ねらいに迫る補助発問で揺さぶる。 ◇社会の状況をよりよくするためには一人ひとりが意識をもち、（自分ごととして）行動するのが大切であることを考えさせる。
終末	**3 本時の振り返りをする。** **〇みんなが力を合わせることで、変えられることはないだろうか。** （授業の感想を書く）	◇たとえ一人でも、「意識」をもち、行動を起こすのが大切であることを自覚して、自分に何ができるのか考えさせる。



4 授業の中心場面の実際
（S：生徒、T：教師）

T：野口さんは「意識をもち、行動に移すこと」がなぜ大切だと考えているのだろう。（**中心発問**）

S：次に富士山に登る人のため、環境問題を改善する。

S：自分が動くことによって、周りの意識を変えることができる。例えば、拾う人が増えると、ごみを捨てにくくなるから、ごみが減っていく。

S：意識を高くもつ。

T：やみくもに動くのではなく、ってことだね。

S：行動することで、海外からの汚名を返上しよう！

T：富士山は以前、世界遺産のうち世界自然遺産への登録が認められなかったことがありました。その汚名を返上するために、自分が意識をもって行動することが大切だというわけだね。

S：放っておいても何も変わらない。一人ひとりが意識を変えて行動しないと、何も変わらないから。

T：じゃあ、みんな。その「意識」って何？ 確かに行動に移すことは大切だけれど、どういう意識をもつことが必要なのかな。（**補助発問**）

S：そのことを自分ごとにするってこと。

T：そのことって？

S：ごみを残したりしないとか、危機感とか……。

T：そうか、そうだよね！ 危機感を自分ごとに、かあ。

T：みんなどこかで、「えっ、富士山が汚れていても、俺たちには関係ないよね。」って思ってない？

S：あるー！！ あるかもー。

T：そう、あるんだよね。でも、ちょっと考えてみて。知らない人たちがみんなの家の前にどんどんごみを捨てていったら、どう思う？

S：嫌だー。怒るー。

T：怒るよね。その「意識」をちょっとだけ広げてみよう。例えば、自分が住んでいる赤坂っていう地域、港区っていうところ、東京都っていうところ、もう少し広げられれば富士山まで届くかもしれないよ。
野口さんは少なくとも、富士山を自分たちの、自分の何とかしなくてはいけない、何とかできるテリトリーだと思ったんだよね。だから行動に移せたんだ。
実はそれが今日のテーマ、最初に言った「公共の精神」というものなのかもしれないね。
ただね、なかなか難しいよ。例えば、「世界の海でマイクロプラスチックが浮遊していて大変なことになっている。」ってテレビで言われても、それを自分ごととして考えるというのは、正直難しいと思う。
でも、一人ひとりが感じられると、必ず「いやあ、もうそんなの我慢できない！」って思うことになる。そして次に何をするのかというと、「行動」に移すことになる。
今日、野口さんはそういうことを言ってくれているんじゃないかなと思います。

畿央大学大学院教授 島 恒生 先生から

補助発問で「意識」の中身に着目させた展開が素晴らしいです。「意識をもって行動すること」の大切さは生徒もわかっています。しかし、「その『意識』とは何か。」と問われると、ぼんやりとしていることにはっとします。それをみんなで明確にしていく中で、公共の精神の正体が明らかになるのです。

後半は、「自分には関係ないと思っていないか。」と問いかけ、「でも、自分の家の前に……」と、それからは教授的・伝達的な展開になってしまいました。逆に、「自分には関係ないからいいのでは？」と揺さぶるのも方法です。そうすることで、本実践の最後に先生が語っている内容を、生徒たち自身が熱く語る「考え、議論する道徳」が、さらに深まることでしょう。

こんなコト、聞いてみました！

ちょっと聞いてみたいギモンに経験をもとにお答えいただきました。
授業のヒントになったり、励みになったり。
これからの道徳の授業に生かせる何かが見つかるかもしれません。

今回のテーマ

学級全体で活発に議論するための工夫は？

対話的な道徳授業を導く５つのアプローチ

前 滋賀県愛荘町立愛知川小学校校長　上田 仁紀

主体的・対話的で深い学びのある授業、とりわけ活発な議論の実現には、それなりの仕掛けが必要です。本稿では、道徳授業で活発な議論を導く手立てとして活用している５つのアプローチを紹介します。

第１のアプローチは、心を揺さぶる問いかけです。例えば、小学校高学年の児童に、「自分の命に値段を付けるといくらか。」「異性間の友情は成り立つか。」のような興味をもてる問いかけをすると、一気に思考モードに入ります。この場合、善悪や結論が見透かせないこと、理由付けが幅広く考えられることがポイントです。

また、議論が平行線になったときには、「罰則さえ厳しくすれば美しい環境が実現できるのか。」「どんな状況でもうそは許されないのか。」と具体的に論点を示して、話し合いを整理していくのも効果的です。

第２のアプローチは、２段階方式の意思表示です。第１段階で、色カード、円グラフ、積み木、ネーム磁石、タブレットなどによって「賛成・反対」といった判断を意思表示させ、学級全体の判断の違いを見える化し、第２段階で判断の根拠を語らせることで、学級全体の思考や議論を活発にします（下記板書参照）。

ネーム磁石で意思表示された板書（愛知川小 谷口文香教諭）

また、例えば「［　　］いっぱい愛荘町」のように空欄に入る言葉を考えさせた後、理由を尋ねるような２段階方式もあります。自分の思いを語ることに抵抗を感じる高学年や中学生に、こうした２段階方式の意思表示はお勧めです。

第３のアプローチは、切り返し発問です。ここで大事にしたいのは、子どもの話に耳を傾ける教師の姿勢です。注意深く話を聴くと、「席を譲った相手は何歳くらいの人だった？」「荷物は持っていたの？」など次々と疑問が生まれるはずです。そのうえで、「同じような経験がある人？」「なぜそんなことができたのだろう。」などと投げかけて話題を掘り下げていきます。

また、役割演技の際にも切り返し発問が重要です。演じている子どもの「とてもうれしいよ。」という言葉に、「そうなの。」で終わっては何も深まりません。「当たり前のことをしただけだよ。なんでそんなに喜んでくれるの？」と切り返すことで、「だって○○だもん。」と価値に関わる思いが引き出せます。そして、演技を見ている側にも「主人公は何がそんなにうれしかったのかな。」と投げかけて、一緒に考えさせます。即興的な会話のやり取りを通して、主人公の心の中の思いを引き出していくのが役割演技の醍醐味（だいごみ）です。

第４のアプローチは、話し合いの形態です。目的に応じて、ペア学習、グループ協議、相互指名、役割演技、全体討論などを取り入れます。話し合いの形態に応じて、ペア、グループ、コの字、円座、座席移動など、座席配置にもバリエーションをつけます。

第５のアプローチは、違いを見える化する板書です。発問に対する反応を事前に予測しておき、意見を分類しながら板書していくことで、「おやっ？」「なんで？」と異なる考え方への疑問が呼び起こされ、質問や意見の応酬が始まります。考え方の違いが鮮明に表れる、驚きと発見のある板書を工夫しましょう。

道徳科の話し合いは、道徳的な見方・考え方を深めてこそ意味のあるものです。本時の学習で、どんな発言や気づきを引き出せたらねらいに到達できるのか。教師には、ゴールを常に意識しながら、臨機応変に話し合いを導くかじ取り力が求められています。

地球の仲間からのメッセージ

獣医師、元大阪市天王寺動物園長
長瀬 健二郎

バビルサ

牙

哺乳類のオス、特に肉食動物のオスの特徴の一つに、発達した牙があります。獲物の命を奪う武器として重要なものです。皆さんがまず思い浮かべるのはライオンやトラのそれでしょうか。5㎝くらいもある長い牙はとても迫力があります。時折、口を大きく開けることがありますが、動物園のお客さんからは歓声があがります。

今から２、300万年くらい前に南北アメリカに生息していたネコ科の肉食動物で、サーベルタイガー、和名を剣歯虎（けんしこ）と呼ばれる動物がいます。ライオンやトラの体重は大きくても200kgを超えるくらいですが、この動物は残された化石から300kgはあったと推定されますし、その名の通り牙が長く、20㎝を超えるものが見つかっています。まさにサーベルを持ったトラですね。

しかし、肉食動物でなくても、例えばニホンザルなどもオスは大きな牙を持っています。果実や木の実、木の葉や虫を主食とするニホンザルですが、敵から自分自身や群れを守るために牙は重要ですし、順位争いにも大切な役割を果たしています。オス同士はただむやみやたらに噛みつき合うわけではなく、まず互いに大きく口を開けて牙を見せ、威嚇し合います。これだけで、こんなに大きな牙を持つ相手には勝てない、と感じた方は逃げてゆくのです。互いの実力を見せ合うことによって、無用な戦いをして傷つけ合うことを避けるという意味合いがあります。時にお客さんに向かってあくびをすることもありますが、これも自分を見つめるヒトに対して牙を見せる威嚇行動なのです。

サーベルタイガー

牙を使って相手を威嚇するという点では、東南アジアのスラウェシ島（旧セレベス島）にだけ生息するバビルサというイノシシの仲間も同様です。絶滅の危機にあるほど生息数を減らしている稀少種のイノシシですが、写真でもわかるように長大な牙は一見に値するほど立派なものです。ただ、伸び過ぎてしまって先端は下を向いてしまい、こうなると実践の武器としては役に立ちません。しかし、長い牙を持っているということは、そうなるまで長い間危機を乗り越え、きちんと縄張りを守り、健康に暮らしてきた証（あか）しであり、そのことはほかのオスに対してもメスに対しても非常に強いアピールになるのです。一方で、伸び過ぎた牙が自分の頭に刺さり、それが原因で死に至ることもあります。ほどほどという言葉を忘れてしまった動物がヒト以外にもいるのですね。